吾人身體上の悲觀（承前）

寺田勇吉

尙各學校に就て最近の統計表を見ると、多少生徒の体格が能くなつて居るのは、大いに望みあることであります、吾人の体格の惡い原因の一は從來の教育の仕方が誤つて居りはせぬかと思ふ、就中今日の女子體格が一般に虛弱であるといふことは諸君の御認になつて居ることで、尤も今日の生徒は能く運動なされわ結果で、新しい所の學校の統計を見るといふと、身體が多少能くなつて來ました併しなから全體から謂へば、猶は教育家諸君の力を借りて之を矯正しなければならぬと思ひます、今猶吾人の身體の惡き原因の一二を少く詳に申上て見よふと思ひますが、然るに私は衛生學者でない醫者でもない素人でありますから、其專門に屬することは專門の學者に讓りまして只教育上の側から、蓋し此等か原因であらうと信する事を述べて見たいと思ひます、偖今日の教育は智育に重きを措いてあります、父兄は子供を幼稚園に入れて「いろは」が讀めることを非常に喜んで居ります、幼稚園は決して、斯ういふ文字を教へる所でない唯善い習慣を作るのであるのに、父兄は「いろは」が讀めるといつて喜んで居るものが澤山ある、又教師も智育に傾いて子

弟に知識を與へるといふをを主として居る是は私共の申す迄もなく、眞の教育でない、教育と申せば、無論此智育、德育、体育といふ此三つか相並んて行かなければならぬ、然るに德育の欠點といふことは隨分今日は甚しくなりました、惡いことを何とも思はぬ、例へは圖書館抔に於きまして、番人が餘程注意して居りまするが、觀覽者の中には本を持つて行つたり、或は書中の圖を奪つたりするものがある、歐羅巴にては決して此の如き事はない、日本にては、公德缺乏の結果、社會の人は惡いことをしても、一向に恥と思はぬやうの傾きかあります、當地方抔も商業の地であり近來餘程商業が盛になつて行くやうでありまするか、一般に申すと、どうも未だ商人の考へか島國的根性を脱しませぬ、人を欺きて賣り附けるといふやうの傾きを有して居るものが澤山あります、どうも外國商人は日本の商人と取引するのに餘程手數が費る、日本人より品物を買ふには一々其品物を改めて見なければならぬ決して見本で賣買が出來ぬから甚だ困ると謂つて居る、商業を段々盛にしなければならぬのに一方に於ては信用といふ問題か全然欠けて居るから、吾國の商業の發達は現今の有樣にては、六ケ敷い現に印度邊りに行つて見るといふと、一時日本の商業の段々盛にならうとしたのが、今では獨逸人に其商業の權力を取られて居る、日本人の持つて行くものは怪しい品物で何時破れるか、信用の出來ぬものである、斯ういふやうに信用の地に落ちて居る所へ、獨逸人は自分の國の品物にて惡いものは是は日本製である、といつて、廉く賣り、善い品物であれば是は獨逸

製あるといつて居る、隨分能くないことであるが、兎も角も日本人の信用といふものは地に落ちて居ることは爭ふべからざる事實であります、さういふ風で細かいことを申上げますると、未た澤山ありませうけれども、さういふ風に信用を重じない、其信用を重しないのは、教育の欠點であらうと思ひます、又一方から申すとそれは詰り社會の上流の人が惡いのである、それであるから社會上流の人が能くなれば社會の全体がよくなる、それ故に今日の教育者は德育の點に至ては決して自分の預つて居る子供に教育を與ふれば足りると思はずに先づ父兄からして教育をしなければならぬ父親も母親も教育をして行かなければならぬ、教育者の地位は實に今日は困難なる場合に立ち至つて居ると思ひます、苟も教育者になつた以上は困難があつても德育のことに就て、自分が模範と爲つて社會全体を矯正するといふ斯ういふ覺悟をしなければ致し方がないと思ひます、さうすれば、急には矯正するといふことは出來ますまいか何時か矯正し得る時期が來て英國の如き狀態になる時があらうと思ひます、英國などにては一寸と鐵道抔に乘つても解る、手荷物を預けても合札も何も要らない、私は倫敦から「マンチエスター」に行きましたが「マンチエスター」に着しましたら、自分の荷物が確實とあつた、乘客は各自分の荷物を持つて行き決して無くなるといふことはない、亞米利加にても郵便箱の中に郵便物の這入りきらぬ時には、郵便箱の上に之を積て置きまするが、子供もなにも之に惡戯するものも何もない、是は詰り教育の結果であります、所が我國では滊車の中

に居りまず間でも、非常に心配で仕方がない、掏摸は居らぬかと思ふて、夜分抔は祿々に睡ることも出來ない、當今博覽會抔に見物に出懸ける人が毎日新橋から、大阪迄の間に瀛車に乘り込むものか、何千人であるか解らぬか其旅行も、少しも安心することが出來ない、又旅店に泊まるにしても少し金でも餘計に持つて居ると奪られはせぬかと思つて安眠することも出來ない、所が西洋でも無論惡いことをするものも澤山ありませうけれとも歐羅巴諸國に於ては、旅店で物を奪らるゝとか、瀛車の中で物を奪らるゝといふことは殆んど無いといつて宜い、どうもさういふ點は美望ましい、それは宗教も無論與つて力あることゝ思ひまするか、教育の結果であります、智育といふことは、日本では非常に重きを措きするか、比較的に德育、体育といふことには、充分に注意をして居らぬやうに思はるゝ、歐羅巴の文明國人は外國人に對しても、掛値といふものかない、露西亞、伊太利、西班牙の如きは顏を見て外國人と知れは掛値を謂うことがあるが獨逸、佛蘭西、英吉利、等の文明國に於ては、掛値といふことは謂はぬ日本にては正直や抔といふ札を掛て置て矢張掛値かあるさういふ見世がどうも大阪邊りにもある、殊に近來、諸國の人が入り込んで來て田舍人並外國人に對しさういふ取扱をすることが隨分あります、

そこで教育の仕方も段々と改めなければならぬか全体教育統計の方で調べて見るといふと、年々歳々就學の歩合が增して居り教育は普及して進んで來て居りまするが、吾人の身體が段々惡くなつて居る、澤山金を費つて教育をして、多少知識を

興へた所が其身體は惡くなり、德育は欠くる所あるといふに至ては教育しない方が却て善いと思はれる、體育のことを申して見るといふと、近來幾分か善くなつて來たやうでありますが、どうも日本人は體操を重じない歐羅巴杯に於ては、殊に瑞典わたりでは、体操場は、神聖侵すべからざる所となつて居る、男女老若の別なく之を行らなければならぬやうに之を重んじて居らるゝ、從て歐羅巴の中では瑞典人が一番身體が善い、歐米各國を巡回して見た所で、一番體育のことに就ては瑞典が宜いといふ感じを持つて居ります、獨逸邊りでも近來瑞典式を輸入して之を行つて居るのであります、日本人の體格の惡いといふのも、段々日本人が奢つて來て、砂糖抔も餘計に用うるといふことも一つの原因でありませう、又眼の惡くなるのは夜分抔も燈火の不充分の所で小な文字の書物を讀ませるとか、又學校で光線の不充分なる所で讀書させ之を打ち棄て置くといふことも原因であらうと思ひます、年々生徒の目が惡くなる、齒が惡くなるといふて居るのはどうしても、打棄て置くことは出來ませぬ、又一般に吾々の身體を良く丈夫にしまするには、此遊戯體操といふやうな、種々の方法を用ひまして之か發達を圖らなければなるまいと思ひます、私は大阪には屢々參りましたが二三年前より大阪の女子教育の仕方は餘程以前とは仕方か違つて參りました、今日の大阪の女學生は以前とは違つて、活潑になられて、體育なども此分では、大に能くなつたらうと思つて悅んで居ります、それから、日本人の弱い原因は、……只今本校等に御出での御方には能く御注意になつて

居る樣でありますか、一般に申しますると、どうも婦女子の身體が弱い、歐羅巴の男子の身長は三寸日本人よりも高く、又體量は二貫三百目多い、歐羅巴の婦人と日本の婦人と比べて見るといふと體量は二貫六百目許り少い身長は九寸七分許り低い、先づざつと、一尺許り低い、其上總ての身體の構造か虛弱である、それで婦人は私が申す迄もなく身體を健全にしなければならぬ、幾ら男子が丈夫であつても其子供の身體は決して完全なりといふことが出來ない。母が弱ければ丈夫の子供の出來やう道理がない、就中、女子の方は歐羅巴人に對しても餘程小さい、西洋人と日本人と大分結婚したものがありますが、日本人が西洋夫人と婚姻して散歩なぞをして居る所を見ると實に見苦いものである西洋の男子は身體が大きいから、婦人の身體が大きくも見苦いことはないが、日本人が西洋人を細君に娶るといふと、良人は細君に引張らるゝといふことになる甚だ不體裁極る、現に日本の男子が西洋婦人と結婚して一緒に歩きながら、さういふ不体裁を演する者が幾らもある歐羅巴の女と日本の女と比べて見るといふと、種々大變に違ふ事がある、御婦人方の御出での所にて申しまするのは失禮でございまするが第一に日本の婦人は餘程不精である、西洋の婦人は一般に能く働きます御承知の通り西洋では中流以上の立派なる細君も午前の十二時までは色々の仕事をして居ります、下女を使はないものもあり、下女を使つても細君は午前中は非常に働くそれから晝飯を仕舞つてから始めて着物を着替へ人に交際する爲め外出もするし來客にも接しますが午前には朝食事

を仕舞ひますると、直ぐに自分が笊を提げて野菜ものなり、肉類なりを買つて來る、自分が買つて來る爲めに新しくして安いものが買へる所か日本ではさういふ風でなく、主人が二三十圓の月給を取ると、其細君は奥樣であつて、家に居つて、八百屋が來る、魚屋が來る、酒屋が來る、自分は凡て家に座つて居つて、買つて居るから、到底安いものや新鮮なものが買うことが出來ない、且つ甚だ身體の爲めにも宜しくない、人を使ふことを高尚である、立派であると思ふのは、封建制度の餘弊である、それが今日迄殘つて居る、旅人が旅舍に行くと蝙蝠傘一本でも下女が持つて行く客の方ではそれを持たして立派であるやうに思ふ、瀛車を降りて、赤帽に鞄を渡たさないと、彼の人は吝嗇だそれで持たせなくても宜い品物を持たせてさうして二錢か三錢か遣れば宜いのに、五錢十錢もやつて、お辭儀を餘計にさせる、お辭儀されぬからとて馬鹿になる譯でなく、お辭儀されたからとて紳士といふ譯でない、とうも、日本人には惡い習慣があつて、殊に女子杯には、さういふ風があるです故にどうしても家内にては出來得る丈下女の數を減らして、細君は午後からは奥樣、午前は下女といふ考へを以て、働く樣に願いたい左すれば自から家も清潔にして買うものも安く買ひ、身體も丈夫になるといふことは誠に結構なることであります、是は學校教育以外に於てさういふ風に充分に我が同胞の婦人を教育して、之を實行して頂きたい、殊に、日本の下女は西洋の下女とは大に趣きを異にして居る、西洋の下女は警察から帳面を貰つて、其帳面を持つて下女を雇ふ家に行つて

此前には、何處に居つた、其品行はどうであつたさういふをを書き込んだ帳面が無ければ、奉公に行かれない、餘程奉行人が確である、日本ではさうでない、周旋宿が唯世話賃を取りさへすれば奉公させる、成るべく礼給金の多い方に行かうとして居る、此周旋屋より來るものは、吾々の爲めに最も必要なる所の臺所を托する隨て臺所は多く不潔にして行屆いて居らぬ、元來一家の經濟といふものは下女があつても、細君の腕で充分働らかなければならぬ、日本の婦人の心懸は大に改めなければならぬ、又日本の男子は、どういふ婦人を愛するかといふと、只顏の奇麗なものて身體の肥滿せぬものを愛する、それは男子の考へが間違つて居る婦人の方もさういふ譯であるから、自然にさういふ形體を希望する傾になる、亞米利加邊りでは、働き手で、非常に身體の大きいものを愛します、外國では、身體の丈夫な婦人をお相撲さんといつたり、軍曹といつたり、警部長といつて居るそれであるから、成るべく働かずに、色の白くて手の餘り肥滿〳〵しないように仕樣といふことは自然の勢であります、決して女子にのみ色が黑くなつて、丈夫であつて活潑にお働きなさいとは謂はぬ、それと同時に男子の方にても亦斯ういふ考へで、一緒になつて、さういふ女子を愛するといふお考へになつて、それを尊ぶといふ風にならなければならぬ是は一朝一夕にさういふことは出來ますまいけれど、さういふ風に奬勵して頂きたいそれから、日本の婦人の働かぬのは着物が一つの原因である、今日學校に御出でになつて居るものも彼の袴を穿くやうになつてから、大いに運動が

出來るやうに成つて來た。是は婦人の體育を助くるものであらうと思ひます、併し學校に行く時許り袴穿きになり、學校以外に居るときには、穿かないで居る、通常厚い帶を締めて袂をふら下げて重い下駄を穿いて居る、下駄も少し重いものになると、片一方許りでも、二百五十匁から三百匁位ある、加ふるに足に着物の裾が纏つて充分に歩くことが出來ない、寧ろ人力車に乗つた方が宜いといふことになる又一方には人力車に乗るに見榮への爲めに乗るものがある、此人力車は目下交通機關の不備なる時に於ては、悉く止めて了うといふことは出來ぬけれども、少くとも節車をして頂きたい、現在我日本帝國の人民は、一ヶ年に人力車の爲めに五千萬圓からの金を費して居る。東京抔にても、人力車の數は四万からありまして、其費す處の金は、年に一千萬圓を費して居る、婦人が今日の如き着物を着て居つては、何處に行かうとしても、歩くことは出來ないから、人力車に乗るといふことになる、之れは獨り乗客の爲のみではない又人力車夫其ものゝ爲めにも宜しくない、車を引く爲め身體も惡くなり、品行も惡くなる、今日の所では、それに代はるべき所のものがありませぬから、止むを得ずして、人類が動物の眞似をして、車を引いて居る、吾々の同胞がそれを引くといふことは、實に悲しきことゝ信じます、故に諸君は出來得る丈、人力車に乗らぬといふ方針を執つて貰ひたい、それには、御婦人方には、特にさういふことは、卒先されて、餘り重い下駄抔を穿いて歩かないやうに致したい、此節は、島田髷などは澤山見えないやうでありますが、頭髪に

油などを附けて丸髷や島田抔に結うといふことは宜しくない、餘程頭が重くなつて、且つ不潔になる、どの點から謂つても、害がありますから、成るべく束髮にし輕い下駄を穿いて、自然に活潑になるやうにしなければならぬ、衣服の問題に就ては、屢々洋服に改良するといふことなどに就て、考へても見ましたけれども是は家屋の構造と伴つて、研究しなければならぬ只今直ぐに洋服に代へた所が家屋の構造が其れに適するやうに出來まいと思ひます、又經濟上の點から謂つて、疊を無くして腰掛けにするといふことも隨分困難でもありますから先づ當分婦人をして成るべく活潑に働くことの出來るやうの工夫をしなければなるまいと思ひます、一体男子は戸外に出るときは洋服を着ても家に居るときには、直ぐに日本服を着て座つて居るそれでは、矢張宜しくない、女子の衣服を改良すると同時に、男子の衣服の改良も研究しなければなるまいと思ひます、日本人の身體の惡くなるのは種々なる原因もありませうが、女子の身體をして强壯ならしめ、丈夫な婦人を作るを第一とします、日本の婦人は西洋婦人に比べて見ると甚だ弱い、西洋には幼稚園が至て少い、日本にては比較的に多い、西洋の幼稚園は女子の職工や何かが、其子供を朝、預けて行つて、晩に工場から歸りに其子供を受取つて來る、斯ういふ貧民的のものが多い、日本では皆華族的である、又小供を幼稚園に遣る所のものは、中以上のものでなければならぬ、却て金が費るといふ風である、其所で日本の妻君には幼稚園の保姆たる資格のない者が多い、西洋では母たるものは其資格を有て居る

から何も中以上の家にては小供を幼稚園に出す必要がない、自分保姆であるから家族に對しては非常に母の權利、母の勢力といふものがあり強いのであります、彼の國にては、殆んど子供の教育といふものは母の手の中にあります、西洋の婦人の家内に於る權力といふものは教育があるからであらうと思ひますが却々強いどうも日本では、從來の習慣でもありませうが、女子は男子の命に從つて居るのみで其柔順といふものが終に卑屈に流れて居る、一般の婦人が自分の良人に向ていふべき丈のことを謂ひ、下女始め、子供迄も母さんを非常に怖いといふやうに日本にても致したいと思ひます日本にては、子供が父親に叱られるときは母親が内證で金を呉れたり、菓子を呉れたりする、西洋にては、さういふをはない、又私は婦人の品位を高尚にするといふをは望む所であるけれども女子をして、餘り高等なる教育を受けしむる必要はないと思ふ、故に一般の女子をして、專門教育を受けしむるといふ必要はないと思ひます、日本に於ては氣候も宜い、及び生活の程度も低いのでありまして彼の西洋の如く結婚し得ない婦人といふものも少ない、西洋では今日結婚年齢に達して居るものが何百万人も餘つて居る、此等の人は終身、獨身にて生活しなければならぬ、其所で終身家に居つて結婚が出來ぬから、女教員でもして暮らさうといふ考へを以て高等女學校邊りに這入つて居る婦人が澤山ある、それ故に獨逸邊りでは女子師範學校の數は甚だ少いが女教員の希望のものが澤山ある、女子の師範學校の教育を受けないでも、高等女學校の卒業試驗を經て居るものは、免

狀を貰つて、終身教員にて、獨身にて暮す事が出來る、併しながら、女子が獨身にて終身暮すといふ、此位不幸なことはない、又今日高等女學校の教育の仕方は全然宜しいかといふと、私はそれに滿足しない、モット之を實業的にして出來得る丈學課等も簡易にして、其代りには教師の授けた所のものは悉く能く記憶して、之を應用し得るやうにして、學校を卒業して、二三年も經つと悉皆忘れて了うとの無いやうにしたい、獨逸邊りに行つて見ると、高等女學校にては、非常に清潔法を勵行して、居る、それで學課抔も日本の高等女學校などより程度が低い、其理屈の能く解る迄教へて居る、其進度抔も至て早くないやうに思はるゝ。併しながら學校を卒業して了つてから之を應用して、始終實際に當つて、行つて居る、彼國の學校

では程度は我國よりも低いけれども、立派の學者も出來、諸種の器械を發明したりするのは、應用する力が充分にあるからである、且つ婦人の體格も良いから人の細君となつて、餘り病氣で始終就蓐するといふものも少いやうである、教師にしても東京邊の學校教師はどうも、欠席勝である、西洋人は十人の中にて一人も欠席といふことはないやうである、矢張實際其の身體が能く出來て居るからでありませう、日本人は元來弱いのに乘らなくも宜い時抔に人力車などに乘つて、一層身體を弱くするといふのも一つの原因であらうと思ひます、元々西洋人は生れたての時は丈夫に生れ、其上段々教育の結果丈夫にされて居るから、年を取つても、身體が丈夫であるものと見える、要するに種々雜多の原因があつて、日本人の體格の惡い

といふことでありまするが、身体強健なる婦人を稱して、相撲取であるとか警部長であるとかいつて、嫌うといふ、さういふ悪い風があるから、可けぬのである、さういふことは大いに間違つて居る、教育家諸君の御盡力で健全なる婦人を作られたなれば將來の日本人が年々歳々身長及体量の減るといふことは無からうと思ひます、どうか諸君に於ても此點に就きましては充分に御實行あつて、どうぞ、吾々の体格を充分に發達させるやうに御盡力下さることを偏に希望致します甚だ長い間だ御靜聽下さりまして、深く謝する次第であります

（完）

今昔いろは料理

石井泰次郎

（も）

紅葉でんがく拵方

魚肉を程よく切たる物、又貝の類にても、又魚の半辨の作りたる物にても、田樂豆腐の如く燒て、味噌のすりて漉したる物へ蕃椒を極めて細かに赤き所のみを刻みたる物をまぜて、砂糖と味淋と水少しとを合せ、鍋にて火にかけねりたる味噌を付て燒くべし、紅葉みそをつくる故にもみぢでんがくとはいふなり

紅葉麩の拵方

麸を養染るに、まづ酒にて養て、次に醤油をさして色をつけて、次に油にてあぐべし、色の深く見ゆるによりて紅葉麩とはいふなり